
IS ~ 飛べない翼 ~

紅茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS〜飛べない翼〜

【Nコード】

N1606Z

【作者名】

紅茶

【あらすじ】

もともと女の子に近い容姿なのに

ISにまで女の子として扱われてしまった

しゅゑ
東雲すばる。

イレギュラーなだけにどこに転ぶか自分でも分からない！

すばるはいったいどうなってしまうのか！

一話 全然関係ないけどチーがまって美味しいよね（前書き）

どうも！初めまして。

紅茶です！

初めてで、かなり駄文ですが読んでくれるとありがたいです！

一話 全然関係ないけどチーかまって美味しいよね

チュンチュン…

「んう……」

小鳥のさえずりと木漏れ日の明るさに目を覚ます。

「ふあああ……眠い……とりあえず支度しなくちゃ……」

眠い目をこすりながらも顔を洗おうと洗面所に行く。

「ふう……こんなもんか……」

着替え、学校へ行く準備などを終えて一息ついていると、携帯に着信がある。

なんだろうと思ってみるとそこには IS学園の文字が・

「おつとつと……はいもしもし？」

「おはよう東雲すばる君今日から君はIS学園に転入してもらうが大丈夫かな？」

抑揚のない淡々とした声、その声の主、織斑千冬は自分の調子を聞く。

「ああ、はい大丈夫ですよ。でもまさか僕がISを動かせるとは思いませんでしたね……はは……」

そう、実は先日藍越学園に入学試験を受けに行こうとしたときに間違ってIS学園の方に行ってしまったのだ。

そのときに置いてあつた打鉄　うちがね　に目を引かれ、起動することなんて無いから触ってみようと思ひ触つた瞬間に、打鉄の動かし方、性質、機動性その他もろもろが頭の中に流れ込んできてあたふたしているところをIS学園の人たちに見つかつてしまい急遽IS学園に入学することになったのである。

まあでも入学手続きやらで途中に入ることになるんだけどねえ・・・ふとそんな事を考えていると千冬さんの声が聞こえる。

「ははっ動かせた理由がISの誤認だからな・・・くく・・・」
「もう！笑わないでくださいよ！こつちだつてびっくりしてるんですから！」

何を言おうこの自分東雲すばるは昔から容姿が女の子に間違われるほど女の子に似ているのだ。

そのせいか打鉄に触つた時に流れてきた情報のに　操縦者：性別女　と書かれており思いつきりはあ！？と叫んでしまったほどであった。

俗にいう男の娘というやつだ。

自慢になんねえ・・・

頭を抱えているとまたも千冬さんの声が聞こえる。

「まあ気にするな。そうそう、もうすぐそっちに迎えが行くと思うからそれに乗つてこい」

「はいわかりました。ではまた後ほど」

ピンポン

電話を切ると同時に家のチャイムになる。

「はい今出ますー」

ガチャッと扉をあけたその先に居たのが、おっぱい爆弾こと山田真耶先生が出てきた。

「どうもー一年一組の副担任山田真耶ですー早速行きましょうか」
「はい」

ニコニコしながら言う山田先生正直言ってかわいい。
年上なのにかわいいが当てはまるっていうのは貴重な気がする・・・。

容姿が女の子な癖に考えることは男の子なすばる君なのでした。

そんな事を考えつつ山田先生についていき20分後IS学園に着いた。

荷物などは粗方IS学園に送っておいたので大丈夫だろう。

「ではこれから先はこの学園で暮らすことになりますが、ほとんど女の子しかいないので気をつけてくださいね？」

ふふつと笑いながら言うてくる姿はかわいい(何度目だ！

何回言ってもかわいいもんはかわいいんだよ！

ごほんごほん。

考えていたことを悟られないように平然とした表情で答える。

「あはは。大丈夫ですよ。」

さつき山田先生が言っていたほとんど女の子というのは、ISは基本的に女の人にはしか乗れないからだ。

なのに僕が乗れているのはISが僕の性別を女と誤認するというミラクルなことが起こってしまったからだ。

確かに僕は女の子と間違われるけど・・・機械にまで間違われるとは・・・シヨック。

「そうですか！では行きましょう！」

その後、山田先生と学園で必要な事を聞いていたらいつの間にか自分のクラスの前に立っていた

自分のクラス一年一組、そうあの織斑一夏がいる教室だ。

織斑一夏というのは織斑千冬の弟で世界で始めて”男”でISを動かした人だ。

同じ男ということもあって仲良くできればいいなと思っている。

「最初は第一印象が大事・・・よし！」

中で一通り終わったのか僕を呼ぶ声が聞こえる。

「では、転校生を紹介しますー入ってきてくださいー」

ガラガラと音を立てて教室に入る。

「では自己紹介をしてください」

うつ・・・緊張する・・・ほんとに女の子ばかりだよ・・・でも！最初が肝心！行くぞ！

「どうも！初めまして！東雲しゅばるといいます！」

・・・噛んだーーーー！！！！！！！！！！

うわわわわわわわわわ（ry

どどどどどどどどどしよう！！！！！！！！

今の僕顔真つ赤だ！

絶対そうだ！

どうしよう・・・と考えてると助けが入る。

「えーっとする君は今とてつもなく緊張しているようです。皆さん仲良くしてあげてくださいね」

「あ、後ずばる君は男の子ですので間違えないでくださいね。」

ふう．．．とりあえず山田先生には後で何か持っていこうかなり助かった．．．

「改めて、東雲すばるです。よく女の子と間違えられますが、男の子です。ここに僕と同じ男の人がいると聞いたのですが・・・」

「……」

「.#?」

嫌な予感がして耳をふさぐ。

「きや ああああああああああああああああああああああ
あああああ！！！！！！！！！！！！！！！」

「二人目の男の子よ！！！！しかも可愛い系の男子！！！！！！」

「お母さん！！！！今ならあなたに言える産んでくれてありがとうとおおおおおおおお！！！！」

「啖んだのも可愛いいい
！！！！！！」

予感的中・・・

うるせえ
・
・
・

かんだこと言っただやっ出て来い半殺しだ。

そんな事を考えてるといつの間に入ってきたのか僕の後ろに千冬さ

んが立っていた。

「あー、静かにしろお前ら。こいつキレたら怖いぞ?」

そう千冬さん不敵な笑みを見せながら言うみんな静かになる。失礼な。別に切れても怖くないよ。

ただ僕が切れると教室が半壊になるだけだよまったく。

「あー東雲、座る席は織斑の隣空いてるからそこに座れ。」
「わかりました」

そういつて一夏の隣に座る。

「よろしくね織斑君」

そうはにかんで一夏に話しかける。

「お、おうよろしくな東雲。俺のことは一夏でいいぜ」
「ん、わかった僕のことすばるでいいよ一夏」

なぜか顔を赤くして答える一夏に疑問を覚えつつ挨拶する。
なぜか一名の女子の視線が痛かった。
なんでだろう・・・?

一話 全然関係ないけどチーがまって美味しいよね（後書き）

小説って難しいですね・・・。

皆さんがとても上手に書けている分気落ちしますが、寧ろ開き直って投稿しているので気にしない！

最後に。

別に感想とか待って無いけどくれるっていうなら貰ってあげないことも無いんだからねっ！（すいませんでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1606z/>

IS～飛べない翼～

2011年12月5日20時54分発行